

令和4年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所管部局	企画調整部
担当課	文化スポーツ局生涯学習課

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1(概要)	-----	2-1
3	付表2(実施事業)	-----	3-1
4	付表3(経営状況)	-----	4-1
5	付表4(経営分析等)	-----	5-1
6	付表5(組織人員体制)	-----	6-1
7	付表6(県関与の状況)	-----	7-1
8	別紙1(県の財政的関与(支援)の内訳)	-----	8-1
9	別紙2(役員等の状況)	-----	9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等について

- ① 中期経営計画2019年度～2023年度
- ② 令和3年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

(2) 成果目標について

東日本大震災の経験を踏まえ、新たに作成した「中期経営計画2019年度～2023年度」の3カ年目となった令和3年度は、コロナ禍の影響で約2か月間の臨時休館を余儀なくされたことに止まらず、感染拡大防止の観点から、当館の魅力の一つとなっている多様な体験プログラムやイベントを中止せざるを得ない状況が続き、集客にも大きく影響を及ぼした。①入館者数、②パスポート保有者数、④移動水族館車の実施回数、⑤提携旅館・ホテル等からの送客数の4項目の成果指標に対し、目標値を下回った。しかし③幼稚園・学校教育減免者数については、受け入れ可能時間の管理やそれに基づく学校への提案・調整により、目標を達成することができた。依然として原発事故による風評被害に加え、令和3年度も前年度に続きコロナ禍による影響が大きな打撃となった。

実 績	令和3年度	
	実 績	目標値
入館者数	33万人	58万人
パスポート保有者数	3,944人	7,600人
幼稚園・学校教育減免者数 *	4.1万人	2.3万人
移動水族館回数	18回	42回
提携ホテルからの送客数	1.0万人	3.0万人

(3) 事業目標と実績の評価

- ① 原発事故による風評被害の影響とコロナ禍の打撃により、令和3年度の入館者数は前年比1.3%減、震災前の平成22年度比約61.0%減の335,538人に落ち込んだ。
- ② コロナ禍の影響を受けて県内でまん延防止等重点措置が講じられたことにより、約2か月間の臨時休館をはじめ、当館の魅力の一つとなっている多様な体験プログラムやイベントの開催は、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、中止せざるを得ない状況が続いた。
- ③ 7月15日から、福島県の漁業をテーマに、体験コーナーや生きた魚などの展示を組み合わせ、遊びながら学ぶ企画展「アクアマリンこども魚市場」をオープンした（令和4年5月8日まで開催）。
- ④ 当財団職員への企画募集に基づく新たな展示コーナーの工事に着手した。
 - ・展示コーナー名 : えっぐの森どうぶつごっこ
 - ・展示内容 : 日本産野生動物の展示とともに、動物の動きにチャレンジできる遊具を備えた野外エリア。遊びを通して動物たちが森で暮らすためにいかに高い能力を持っているかを体感しつつ生態を学ぶことができるコーナー。（オープン日令和4年4月26日）
- ⑤ ショップ「ウミノス」および「アクアマリンショップJOHMON」の2店舗の営業により、広い客層の集客・販売の拡充に努めた。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- (1) 来館者へのアンケートを継続的に実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、主な立ち寄り先や宿泊地、満足度や意見要望の把握を行っている。
- (2) GW期やお盆期間の繁忙期において、駐車場調査を実施し、来館者居住地及び動向の把握に努めている。
- (3) 小名浜まちづくり市民会議やばんえつ発見の旅、港会（小名浜港関連の16公的機関）、4社協議会（アクアマリンパーク立地のイオンモール小名浜含む4団体）などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。
- (4) 海・山・川の循環のあり方や自然環境の保全、自然の持続的な利用、多種多様な生物が織りなす命の営みについて考える場として、えっぐの森をリニューアルし、えっぐの森どうぶつごっごの新展示を加え、維持管理をしていく。
- (5) 猪苗代町から指定管理を受けている「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」では、福島県の水環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、積極的に情報発信する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

平成12年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少しているが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成22年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故による風評被害により、当館を取り巻く環境は一変し、当期収入額に占める事業収入が減少する等、将来が不透明な状況にある。

令和3年度も昨年度同様にコロナ禍の影響を受け入館料収入が大幅に減少したが、県の指定管理委託料の3億5千3百万円の増額があったため、当期一般正味財産増減額はマイナス1億6百万円となっているが、収支バランスは大幅に崩れているため検討が必要である。

2 サービス向上策の評価

令和3年度においても、コロナ禍による臨時休館を除き、年中無休営業を継続し、入館者サービスの向上を図った。

新たに、イオンモール各店舗での割引等の特典を増やし、年間パスポートの販売促進とリピーター増に努めた。また、教育旅行では、来館時の日時調整を行い、密にならない入館方法で学校団体入館者数を伸ばした。入館券販売では、クレジット端末つき無人券売機の導入、及び新規にアソビュー(webチケット)サイトを導入して入館券の外販強化と当館のPR強化を図り、入館窓口の混雑緩和(三密対策)に努めた。また、来館者サービスの向上と広報に努め、SNSによる情報発信の強化やオンラインプログラムやイベントの開催、季節に関連したイベントを開催するなど、常設展示を拡充したテーマ展示を実施した。

さらには、ポストコロナを見据え、新たな展示の準備をするなど来館者サービスの向上に努めた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点 1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

(1) 計画性

経営計画については、東日本大震災の経験を踏まえ、令和元年度に「中長期計画 2019 年度～2023 年度」が策定された。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「中長期計画 2014 年度～2018 年度」の反省に加えて、依然として根強い風評や近県水族館のリニューアル等業界環境の変化といった現状分析を反映し、環境水族館路線の堅持、他の水族館にない展示・プログラムの展開、連携交流の促進等に取り組む内容となっているため、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

(2) 成果目標と達成状況

本計画において 5 つの成果目標が掲げられている中で、令和 3 年度も設定した目標 5 項目のうち、4 つの項目については、東日本大震災に係る原発事故の風評や大規模自然災害、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響による入館者数の落込等により、達成できなかった。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケート調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握にも努めている。

また、放射線の情報を広く発信することで、風評の払拭にも努めている。

3 令和 3 年度実施事業に対する評価

(1) 設立目的及び公益性に照らした事業の評価

令和 3 年度に実施した飼育展示事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

飼育困難生物の畜養や深海性生物の採集を行い、魅力ある展示に努めたほか、季節ごとのイベントや様々な企画展を開催し、誘客と来館者サービスの向上に取り組んだことは評価できる。

(2) 公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による事業は、公益事業の財源として活用されている。

その事業規模は、公益事業と対比して 2 分の 1 以下となっているため、バランスは適正である。

(3) 社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます高まるものと考えられる。

また、自然体験による学習交流支援、放射能汚染問題にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。

ふくしま海洋科学館はアクアマリンえっぐを含む、施設の一層の有効活用、関係機関との協力等によって、次の時代・世代の要請に応える事業を展開していくことを期待する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 県の財政的関与にかかる自己点検について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響を大きく受け、法人の経済的かつ効率的な施設の運営をもってしても、令和3年度の法人の財務状況としては、令和2年度に引き続き正味財産が大きくマイナスとなることから、令和3年度の指定管理委託料の増額を行った。

また、入館者数が震災前の状況まで回復していないことなど、今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2 収益事業について

ミュージアムショップ等事業、レストラン事業等の収益事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されている。

今後とも創意工夫により収益事業会計収益の安定を図る必要があるが、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策等のため、入館者数が大きく落ち込んでいることから、その収支については注視していく必要がある。

【参考】収益事業正味財産及び他会計への繰出額 ※（ ）書きは他会計への繰出額

令和3年度	220,578千円	(3,073千円)
令和2年度	229,398千円	(16,081千円)
令和元年度	276,142千円	(27,030千円)
平成30年度	277,316千円	(29,780千円)
平成29年度	317,365千円	(50,886千円)
平成28年度	406,497千円	(80,825千円)
平成27年度	379,621千円	(122,164千円)
平成26年度	341,767千円	(107,145千円)
平成25年度	337,760千円	(107,471千円)
平成24年度	337,016千円	(85,000千円)
平成23年度	233,487千円	(40,000千円)
平成22年度	330,381千円	(40,000千円)

3 経費節減について

施設管理費について、令和3年度は、修繕費の増加等により、前年度の実績を上回ることから、引き続き、創意工夫により施設管理の効率化に努める必要がある。

4 サービス向上策について

年中無休営業並びにゴールデンウィーク、夏休み期間及びクリスマス期間の開館時間延長に加え、入館料割引特典等によるリピーター増に務め、SNSによる情報発信の強化や季節に関連したイベントの開催により、来館者サービスを向上させた。

また、団体客の来館時間のきめ細かい調整や多様な決済手段の導入など、コロナ禍においても感染防止対策との両立を図りながら、サービス向上に努めている。

しかしながら、原発事故による風評、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
<p>1 東日本大震災からの復旧状況 平成25年で復旧工事は完了したが、建造物周囲の地盤沈下は依然として続いており、段差や陥没が生じている。盛り土の締まりだけではなく、地中梁の下から土砂が建物のピット内に崩れている個所もあり、中には BIOBIO かつばの里の観覧通路が陥没した例もあるため、大規模改修計画を策定の上、大規模な修繕を行う必要がある。</p> <p>2 原発事故に伴う損失 令和3年度の入館料収入は、平成22年度に比べて516,535,400円の大幅な減収となった。これはコロナの影響によるものが大きいですが、原発事故による風評の影響が依然として続いているとの認識である。</p>
個別課題：

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
<p>1 東日本大震災からの復旧状況 復旧工事については終了したが、地震の揺れ、津波の塩害等及び築21年を経過したことにより建物・設備の劣化が進んでいるため、適切な維持管理を行っていく。</p> <p>2 原発事故に伴う損失及び賠償請求状況 近隣施設との連携や展示の充実を図り入館者数の増加を目指しているが、依然として風評による入館者の減少は続いていると考えられる。</p>
個別課題：

2 付表1: 公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館					
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例					
設立年月日	平成10年 4月 1日					
代表者職氏名	理事長 古川 健					
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地					
ホームページアドレス	https://www.aquamarine.or.jp					
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課					
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。					
経営理念・目標等	<p>公益財団法人ふくしま海洋科学館は、平成21年度から中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行い、業務の効率化やコスト削減を行うとともに、展示の質の維持・向上を図ることで経営の健全化を目指してきました。しかし平成23年3月の東日本大震災とその後の風評被害が継続する中、一昨年来のコロナ禍にみまわれ、厳しい運営を迫られています。</p> <p>昨年度7月には新しく古川館長が就任し、前任の安部館長が2003年に世界に向けて発信した環境水族館宣言の運営理念を堅持しつつ、世界に類を見ない展示や体験活動を提供し、子どもたちに希望のある明るい未来を想像させる唯一無二の水族館として、施設の魅力を高め、入館者の確保に努めていきます。また、当財団同様に苦境にたたさされている地域の皆様と、共に考え、共に歩み、地域全体でこの状況を打破していきます。</p>					
資本金・基本金	H22末	H30末	R1末	R2末	R3末	R4末予定
(単位:千円)	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
令和元年度末 出資等内訳 (単位:千円) ※県分を除く。	出資順位	団体名			出資額	構成比
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
主な事業内容 (詳細:付表2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業 2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業 3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業 4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業 5. 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業 6. 上記1から5の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業 7. その他公益目的を達成するために必要な事業 8. ショップ及びレストランの運営等に関する事業 9. 古物営業に関する事業 10. その他上記事業に関連する事業 					

3 付表2:実施事業

1	事業名	飼育展示事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①生物収集事業 展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。</p> <p>②南方系生物畜養事業 南方系魚類(黒潮大水槽及びサンゴ礁水槽展示生物)を収集し、奄美大島の海上生け簀にて蓄養し輸送する。</p> <p>③水生生物保全センター運営事業 採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を実施し、新規の展示開発に取り組むとともに、収集が困難な植物の実生栽培等も行い、独創性のある植物展示に結びつける。</p> <p>④飼育生物管理事業 収容生物(植物を含む)の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。</p>						
	目標	<p>①淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。</p> <p>②海上生け簀による蓄養・搬入により展示内容の充実を図る。</p> <p>③サンマ・メヒカリの飼育、深海性・外洋性生物等の飼育。</p> <p>④収容生物の展示・飼育管理等を行う。</p>						
	事業実績	<p>①飼育生物数(各年度末時点)22年度末684種27,495点(東日本大震災により激減)、平成29年度末1,281種162,783点、55品種948点、平成30年度末1,289種89,838点、58品種973点、平成31年度末1,274種60,385点、61品種882点、令和2年度末1,270種64,539点、61品種882点、令和3年度末1,275種65,766点、61品種882点。</p> <p>②キタオットセイ2頭の展示を開始するとともに、海洋プラスチックごみ問題に関心を持っていたため、当財団が行ってきたオットセイの保護活動を紹介するコーナーを新たに設けた。</p> <p>③日本産野生動物の展示とともに、動物の動きにチャレンジできる遊具を備えたコーナーの工事に着手した。</p> <p>④羅臼沖で収集し、新種公表した「ホカケコオリカジカ」の展示を世界で初めて行った。</p> <p>⑤幻の魚と言われる「カンテンゲンゲ」の展示を日本で初めて行った。</p> <p>⑥水槽数・・・153槽(本館113槽、アクアマリンえっぐ28槽、BIOBIOかっぱの里1槽、蛇の目ビーチ1槽、わくわく里山縄文の里2槽、金魚館8槽)</p>						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
	(単位:千円)	169,490	124,517	109,197	90,855	83,029	53.6%	49.0%
2	事業名	移動水族館事業					継続事業	公益事業
	事業内容	移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。						
	目標	移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。						
	事業実績	<p>移動水族館実施件数・・・22年度12箇所・観覧者16,017名、23年度6箇所・観覧者9,423名、29年度16箇所(18日開催)・観覧者21,394名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)30年度15箇所(18日開催)・観覧者29,200名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)31年度11箇所(13日開催)・観覧者19,522名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)2年度5箇所(5日開催)・観覧者4,685名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)3年度8箇所開催・観覧者5,371名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p>						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
	(単位:千円)	2,611	869	619	172	178	6.6%	6.8%

3	事業名	研究交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	各種学会及び研究会への参加、友好締結園館への職員研修を実施する。						
	事業実績	①学術論文 ・Morphological development of laboratory-reared <i>Crystallichthys matsushimae</i> (Cottoidei:Liparidae): 松崎、森、甲斐、平 ほか3誌 ②学会発表 ・Induction of Natural Nursing Behavior in Eurasian otters through Recreation of Wild Habitat in the Exhibition Enclosure: 中村 ほか3件						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	13,726	4,813	5,273	1,498	2,002	10.9%	14.6%	
4	事業名	海洋文化推進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	新型コロナウイルス感染症流行のため活動中断。						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	17,410	1,721	3,785	0	0	0.0%	0.0%	

5	事業名	企画管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①企画管理事業 接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。</p> <p>②広報宣伝事業 ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。</p> <p>③観光誘致事業 首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。</p> <p>④地域交流事業 周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。</p>						
	目標	<p>①受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。</p> <p>②テレビ、ラジオ及びCMの放送、旅行誌等への広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配付、ホームページによる広報を実施。</p> <p>③エージェント等への営業訪問を実施する。観光懇談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客事業を行う。</p> <p>④小名浜港まつりへの協賛、あぶくま発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。</p>						
	事業実績	<p>①年間パスポート販売件数・・・22年度8,386件、29年度7,254件、30年度7,181枚、31年度6,314枚、2年度5,820枚、3年度4,819枚。</p> <p>②テレビCM放映局数(県内、県外)・・・22年度40局、29年度12局、30年度7局、31年度16局、2年度12局、3年度14局。</p> <p>③観光券取扱契約業者からの送客数・・・22年度23,712人、23年度6,336人、24年度25,853人、25年度21,110人、26年度18,451人、27年度15,921人、28年度12,713人、29年度12,219人、30年度14,170人、31年度9,776人、2年度2,935人、3年度10,248人。</p> <p>旅客斡旋手数料支払契約業者からの送客数・・・22年度11,145人、29年度5,859人、30年度6,199人、31年度3,644人、2年度832人、4,276人。</p> <p>コンビニ店舗における前売券販売による集客・・・入館者数(29年度8,175人、30年度11,152人、31年度13,093人、2年度6,254人、3年度5,425人)</p> <p>④小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。</p>						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	158,925	117,133	129,668	135,618	103,367	85.3%	65.0%	

6	事業名	学習交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>①解説活動事業 子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。</p> <p>②企画展開催事業 来館者サービスと広報を兼ね、常設展示とテーマを定めた企画展を開催する。</p> <p>③展示事業 魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。</p> <p>④学校教育関連事業 学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。</p> <p>⑤情報提供事業 インターネットや機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。</p>						
	目標	<p>①海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設を目指す。</p> <p>②「小名浜国際環境芸術祭」「キッズアート展」等の企画展を開催する。</p> <p>③展示の充実を図る。</p> <p>④館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車輛の活用等により学習支援事業を実施する。</p> <p>⑤ホームページの随時更新、機関紙(AMF NEWS)年4回の発行。</p>						
	事業実績	<p>①ボランティアによるバックヤードツアーは感染症対策のため休止した。(29年度24,820人、30年度23,388人、31年度22,396人、2年度及び3年度休止)</p> <p>②企画展開催件数…22年度10件、29年度9件、30年度11件(催事も含む)、31年度14件(催事も含む)、2年度12件(催事も含む)、3年度12件(催事も含む)。</p> <p>③オセアニックギャラリーでは、「いわき七浜捕鯨文化」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「地球環境の保全活動」「よみがえれ木戸川(～R4.2.15)」「海にあふれるプラスチックごみ(R4.2.25～)」について展示した。</p> <p>④移動水族館専用車による移動水族館の開催…22年度10市町村18日開催、29年度12市町村23回開催、30年度13市町村20回、31年度19市町村27回、2年度5市町村9回(このほか広報宣伝活動、営業活動にも使用)</p> <p>⑤情報コーナーにおいて国内外の友好園館を紹介する展示を実施した。 風評被害払拭に関わる放射線関連の情報を提供した。 ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報提供。機関紙(AMF NEWS)を年4回発行。</p>						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	119,660	13,472	7,838	6,773	47,908	5.7%	40.0%	
7	事業名	ボランティア等活動事業					継続事業	公益事業
	事業内容	<p>アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。</p>						
	目標	<p>バックヤードツアーの実施、アクアマリンえっぐでのプランクトン解説等。</p>						
	事業実績	<p>ボランティア登録者数…22年度末237名、29年度末238名、30年度228名、31年度216名、2年度受け入れ休止(コロナのため)、3年度162名。</p>						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	2,245	1,909	1,743	1,466	1,087	65.3%	48.4%	

8	事業名	施設管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輛の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設…本館等敷地56,189.52㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床 925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡、わくわく里山・縄文の里関連施設1,509.56㎡						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 390,577	H30決算 369,510	R1決算 368,757	R2決算 379,463	R3決算 468,598	R2/H22 97.2%	R3/H22 120.0%
9	事業名	ミュージアムショップ等事業					継続事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上… 22年度282,063,891円、29年度179,928,254円、30年度185,202,822円、31年度182,372,013円、2年度127,256,782円、3年度139,793,179円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 207,986	H30決算 158,339	R1決算 161,132	R2決算 121,556	R3決算 125,268	R2/H22 58.4%	R3/H22 60.2%
10	事業名	レストラン事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上… 22年度37,392,835円、23年度20,579,496円、24年度29,355,200円、25年度31,159,380円、26年度33,887,640円、27年度43,772,310円、28年度43,715,720円、29年度44,624,030円、30年度46,095,110円、31年度42,932,500円、2年度27,252,400円、3年度26,579,460円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 49,995	H30決算 52,459	R1決算 49,332	R2決算 39,191	R3決算 38,449	R2/H22 78.4%	R3/H22 76.9%

11	事業名	イブニングイベント事業					継続事業	収益事業
	事業内容	潮目の大水槽前のスペースを「アクアマリン竜宮城」と称して、イブニングイベントを開催し、雑魚のブランド化及び地域交流の場を提供する。						
	目標	アクアマリンふくしまの目玉である潮目の大水槽前の空間を、閉館後有料空間として開放することにより、収益増と地域交流を図る。						
	事業実績	イベント実施件数 雑魚をおいしく食べる会・新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。(24年度から31年度まで毎年12回、2年度は8回開催した。)						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	レストラン事業費内	レストラン事業費内	レストラン事業費内	レストラン事業費内	レストラン事業費内			
12	事業名	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに、統括的な事業展開を行う。						
	目標	①絶滅が危惧される水生昆虫や両生類等の保全を図る。 ②参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動を図る。						
	事業実績	①福島県の河川・湖沼についての展示を行うとともに、希少淡水魚繁殖保全水槽にて絶滅が危惧される生物の展示を行った。また、県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示を行い、生物多様性について情報発信を行った。 ②釣り体験や小川水槽等の体験型展示を通じて環境保全や教育普及を行った。						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)	—	79,464	78,832	78,885	81,191			

4 付表3:経営状況

区 分		H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
収 支 の 状 況	① 収入	2,016,339	2,293,276	2,206,404	1,723,539	1,916,975	85%	95%
	当期収入合計	1,811,389	1,340,402	1,291,726	978,258	1,325,492	54%	73%
	うち基本財産運用収入	1,778	114	114	73	0	4%	-
	うち事業収入	1,201,042	929,335	874,094	557,299	548,115	46%	46%
	うち補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)	541,615	410,953	417,518	420,886	777,377	78%	144%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩	66,954	0	0	0	0	-	-
	前期繰越収支差額 ^{※1}	204,950	952,874	914,678	745,281	591,483	364%	289%
	② 支出	1,838,355	1,580,921	1,457,644	1,470,446	1,431,991	80%	78%
	うち人件費総額	424,208	446,400	454,184	458,478	440,009	108%	104%
うち人件費総額管理費(除人件費)	402,188	377,659	375,914	382,946	472,374	95%	117%	
うち事業費(除人件費)	1,011,959	756,862	627,546	629,023	519,608	62%	51%	
③ 当期収支差額 ^{※2}	-26,966	-236,494	-140,312	-491,857	-106,336	1824%	394%	
④ 次期繰越収支差額 ^{※1}	177,984	914,677	745,281	591,483	788,513	332%	443%	
財 産 の 状 況	① 資産	2,450,327	2,643,829	2,555,484	2,021,216	1,969,697	82%	80%
	流動資産	563,491	1,080,775	967,184	744,451	992,671	132%	176%
	固定資産	1,886,836	1,563,054	1,588,300	1,276,765	977,026	68%	52%
	② 負債	514,982	461,026	538,653	496,575	551,554	96%	107%
	流動負債	372,654	166,098	221,902	152,968	204,157	41%	55%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	固定負債	142,328	294,928	316,751	343,607	347,397	241%	244%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
③ 正味財産	1,935,344	2,182,749	2,016,829	1,524,641	1,418,143	79%	73%	
うち当期増減額	19,703	-240,520	-165,919	-492,188	-106,499	-2498%	-541%	

5 付表4:経営分析

区 分	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
①公益事業比率	82%	86%	84%	88.5%	87.7%	108%	107%
支出額計	1,838,355	1,580,922	1,457,645	1,470,446	1,431,991	80%	78%
公益事業支出額	1,502,886	1,351,858	1,231,265	1,301,886	1,256,044	87%	84%
収益事業支出額	335,469	229,064	226,380	168,561	175,947	50%	52%
②直営事業比率	95.6%	90.2%	89.6%	85.3%	78.0%	89%	82%
支出額計	1,838,355	1,580,921	1,457,644	1,470,446	1,431,991	80%	78%
直営事業支出額	1,757,172	1,425,209	1,306,125	1,254,446	1,117,220	71%	64%
再委託事業支出額	81,183	155,712	151,519	216,000	314,771	266%	388%
③自主事業比率 (自主事業/支出額計)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④施設等利用人数 (行政客体)	861,326	563,517	533,459	339,855	335,538	39%	39%
⑤施設等稼働率	345日	365日	365日	336日	305日	97%	88%
	2,497人/日	1,543人/日	1,462人/日	1,011人/日	1,100人/日	40%	44%
⑥補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)比率 (補助金等額/当期収入合計)	29.9%	30.7%	32.3%	43.0%	40.5%	144%	135%
⑦流動比率 (流動資産/流動負債)	151.0%	650.7%	435.9%	486.7%	486.2%	322%	322%
⑧管理費比率 (管理費/支出額計)	21.9%	23.9%	25.8%	26.0%	33.4%	119%	153%
⑨人件費比率 (人件費/支出額計)	23.1%	28.2%	31.2%	31.2%	30.5%	135%	132%
⑩借入金比率 (借入金/資産)	0	0	0	0	0	-	-
⑪一人当たりの人件費 (人件費/総職員)	5,050	5,378	5,221	5,270	5,116	104%	101%
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入/総職員)	20,746	16,148	14,846	11,244	15,412	54%	74%
⑬補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)に含まれる人件費比率(人件費/補助金等)	78.3%	108.6%	108.8%	108.9%	56.6%	139%	72%
⑭事業収入に含まれる人件費比率(人件費/事業収入)	24.3%	33.3%	35.2%	46.9%	52.6%	193%	216%

6 付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分	H22末	H30末	R1末	R2末	R3末	R4(4/1)	R3/H22	R4/H22
役員 (監事含む)	常勤役員	2	2	2	2	2	100%	100%
	プロパー	1	1	1	1	1	100%	100%
	民間						-	-
	県OB						-	-
	県現職派遣	1	1	1	1	1	100%	100%
	その他						-	-
	非常勤役員	10	8	9	9	9	90%	90%
	民間	7	7	8	8	8	114%	114%
	県OB						-	-
	県現職	2	1	1	1	1	50%	50%
	その他	1					-	-
合計	12	10	11	11	11	92%	92%	
職員	常勤職員	41	51	48	47	48	117%	115%
	プロパー	35	46	45	44	45	129%	126%
	民間						-	-
	県OB						-	-
	県現職派遣	6	5	3	3	3	50%	50%
	その他						-	-
	非常勤職員	41	32	38	40	36	88%	85%
	嘱託員	2	4	4	4	4	200%	150%
	臨時職員	34	0	2	5	1	3%	12%
	人材派遣						-	-
	その他	5	28	32	31	31	620%	560%
合計	82	83	86	87	84	102%	100%	

2 職員の年齢構成 (令和4年7月1日現在)

(単位:人)

区分	~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~	
管理職員	プロパー						2		
	民間						4		
	県OB								
	県現職派遣					1	1		
	その他								
	合計	0	0	0	0	1	1	6	0
一般職員	プロパー	15	4	11	8	14	5	6	10
	民間								
	県OB								
	県現職派遣			2					
	その他								
	合計	15	4	13	8	14	5	6	10
総計	15	4	13	8	15	6	12	10	

7 付表6: 県の関与状況

区 分		H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4当初	R3/H22	R4/22
財政的関与	①補助金等	479,530	386,425	387,869	387,869	740,771	387,594	154%	81%
	補助金	35,000	25,685	25,685	25,685	25,685	25,685	73%	73%
	負担金							-	-
	交付金							-	-
	委託料		270	275	275			-	-
	指定管理料	444,530	360,470	361,909	361,909	715,086	361,909	161%	81%
	②貸付金							-	-
③損失補償額(契約額)							-	-	
④債務保証額(契約額)							-	-	
人的関与	⑤役員就任(監事を除く)	2	2	2	2	2	2	100%	100%
	常勤役員	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	県OB							-	-
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	上記以外の職員							-	-
	非常勤職員	1	1	1	1	1	1	100%	100%
	三役							-	-
	部局長	1						-	-
	県OB							-	-
	上記以外の職員		1	1	1	1	1	-	-
	⑥監事就任	1	1	1	0	0	0	-	-
	三役							-	-
	部局長							-	-
	上記以外の職員	1						-	-
	⑦評議員就任	1	1	1	1	1	1	100%	100%
部局長		1	1	1	1	1	-	-	
上記以外の職員	1						-	-	
⑧職員派遣	6	5	3	3	3	3	50%	50%	
管理職員	1	1	1	1	1	1	100%	100%	
一般職員	5	4	2	2	2	2	40%	40%	

8 別紙1

区分	名 称	R3決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	利用料金免除事業補助金(福島県)	25,685
	広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	
	海の博物館活動サポート((公財)日本海事科学振興財団)	10,939
	日本財団の助成を受けて、全国の水族館等社会教育施設で開催される「海の学び」に繋がるテーマをもった企画展・特別展等を支援することにより、国民一般の「海の学び」への理解増進を達成することを目的とする。	
補助金額合計		36,624
負担金		
交付金	生物多様性保全推進交付金(環境省) 種の保存法に基づく国内希少野生動植物種について、動植物園等が実施する種の保存に資する飼育・繁殖・野生復帰の取組等に必要な経費の一部を交付。	1,086
委託料		
	委託料額合計	0
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料(福島県) 県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	715,086
	指定管理者制度に伴う管理委託料(猪苗代町) 都市生活者等に自然と農業に親しむ場を提供することにより、自然環境及び内水面漁業等の振興を図り、住民福祉の増進に資する緑の村施設の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	20,000
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

9 別紙2 役員の状況

令和4年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日
					現任期満了日
理事長	1	古川 健	常勤	ふくしま海洋科学館館長	R3.6.28 R5.6評議員会の日
副理事長	1	(空席)			
専務理事	1	(空席)			
常務理事	1	境野 浩義	常勤	ふくしま海洋科学館副館長	R3.6.28 R5.6評議員会の日
理事	4~12	小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 R5.6評議員会の日
		川田雅雄	非常勤	小名浜まちづくり市民会議 副会長	H28.6.22 R5.6評議員会の日
		谷口 旭	非常勤	生物生態研究所所長	H18.4.1 R5.6評議員会の日
		佐藤 隆広	非常勤	福島県企画調整部 文化スポーツ局次長	R3.6.28 R5.6評議員会の日
		馬場典枝	非常勤	FMいわきパーソナリティー	H25.4.1 R5.6評議員会の日
		田中 明	非常勤	元中東協力センター 審議役	H28.6.22 R5.6評議員会の日
		藪本美孝	非常勤	北九州市立自然史・歴史博物館 魚類担当学芸員(自然史担当係長)	H29.6.21 R5.6評議員会の日
	監事	2以内	伊東幸雄		前公立岩瀬病院企業団企業 長
吉田哲司				東邦銀行常務執行役員 いわき営業部長	R4.6.24 R7.6評議員会の日